

エコアクション21



®環境省

環境経営レポート

エコアクション21
認証番号0012470

令和5年7月～令和6年6月



株式会社 山 田 組

佐賀県佐賀市東与賀町大字田中580番地5

TEL. (0952) 45-2206

FAX. (0952) 45-2343

令和 6 年 10 月 15 日発行

目 次

1	組織の概要	1
2	環境経営方針	2
3	実施体制	3
4	環境経営目標	4
5	環境経営計画	5
6	環境経営目標の達成状況	6
7	環境経営計画の実施状況	7
8	取り組み状況の確認及び評価	8～10
9	次年度の環境経営目標及び環境経営計画	11
10	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 ならびに違反、訴訟等の有無	12
11	代表者による評価と見直し	13

組織の概要

- (1)事業所名 株式会社山田組
代表者名 代表取締役 山田 稔浩
- (2)所在地
・ 本 社 〒840-2222
佐賀県佐賀市東与賀町大字田中580番地5
・ 資材置場 佐賀県佐賀市東与賀町大字飯盛1892番地
- (3)環境管理責任者 山田 陽介
- 連絡先 TEL. 0952-45-2206
FAX. 0952-45-2343
E-mail yamadagumi-60-12@cronos.ocn.ne.jp
- (4)事業の内容
・ 土地造成・護岸・クレーク防災・道路・下水など土木工事
・ 河川や側溝のしゅんせつ
・ 家屋や構造物の解体
- (5)建設業許可 佐賀県知事許可 特-2 第5718号
許可年月日 令和2年9月28日
- (6)主な保有資格・免許 1級土木施工管理技士・排水設備指定店・排水設備責任者
下水道管路管理技士・配水管技能者
ブロック塀診断士・産業廃棄物収集運搬
- (7)事業規模
・ 資本金 2千万円
・ 従業員 20 人(R6年6月現在)
・ 売上高 300百万円(R6年6月期)
・ 事務所・倉庫 175m²
・ 資材置場 1,752m²
・ 法人設立 昭和60年12月9日
- (8)事業年度 7月1日 ～ 翌年6月30日

2.認証・登録の対象範囲

- (1)事業活動 土木一式工事・とび土工工事・しゅんせつ工事
- (2)対象事業所
・ 本社及び資材置き場
・ 上記の全組織、全活動を対象範囲とする。

環 境 経 営 方 針

（基本理念）

株式会社山田組は、
土木建設工事を通じて、国土保全と社会環境の充実に貢献します。
そのなかで、健全な地球環境を守ることが、
そのまま、そこに住む生きとし生けるものの身体を守ること、ひいては、
会社の社会的信用・繁栄、従業員の安定的な雇用に繋がるという意識の
もと、自然環境への影響を考慮し、資源の効率的利用と廃棄物の抑制を
経営の重点課題と認識し、環境保全のために経営の継続的改善に努めます。

（行動方針）

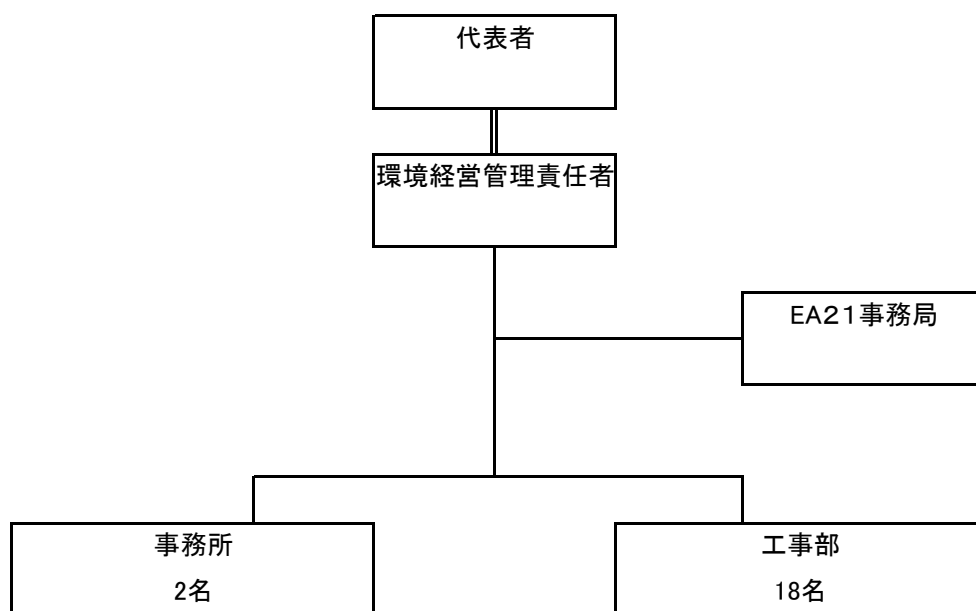
1. 次の項目を重点項目として取り組みます。
 - （1）電力、燃料等のエネルギーの効率的な使用及び省エネに努め、二酸化炭素排出量を削減します。
 - （2）太陽光発電を活用して、二酸化炭素排出量の削減に寄与します。
 - （3）廃棄物排出量の抑制とリサイクルを推進します。
 - （4）節水に努め、水使用量を削減します。
 - （5）環境に配慮した施工を心がけます。
 - （6）安全運転は即ちエコ運転であり、職場を守り人を守ります。
2. 当社の事業に関連する環境関連法規等を遵守します。

改定日 令和 6 年 8 月 1 日

株式会社 山 田 組

代表取締役 山 田 稔 浩

実施体制



役割分担表

所 属	役 割 ・ 責 任 ・ 権 限
代表取締役	- 代表者として環境経営全般について責任と権限を持つ - 環境経営方針を作成・見直し、従業員に周知する - 環境経営管理責任者、EA事務局長を任命する - 取り組みを実施するための資源(人・もの・金)を準備する - 取り組み状況に関し評価、見直しを実施する - 経営における課題とチャンスを整理し明確にする
環境管理責任者	- 環境経営のシステムを構築する - 環境経営目標、活動計画を作成する - 目標の達成状況、計画の実施状況を確認、評価する - 上記の結果を代表者に報告する
EA21事務局	環境経営管理責任者を補佐し、EA22文書及び記録類の作成、維持・集計・管理を行
事務所	- 電力、水消費の管理 - 太陽光発電の管理 - 車・重機燃料(ガソリン、軽油)、灯油消費量の管理 - 廃棄物の排出量の管理
工事部	- 建設現場でのエネルギー削減、騒音・振動の抑制に努める - 産業廃棄物の排出量の抑制とリサイクルの推進に努める - 車両のメンテナンスを確実にし、燃費、排ガスの管理に努める

環境経営目標

環境目標	区分	単位	基準年	目標				
			H30	R2	R3	R4	R5	
			H30.7～R1.6	(1%削減)	(2%削減)	(3%削減)	(4%削減)	
				R2.7～R3.6	R3.7～R4.6	R4.7～R5.6	R5.7～R6.6	
1.二酸化炭素排出量の削減	事務所	kg-CO2	1,803	1,785	1,767	1,749	1,731	
	現場	kg-CO2	242,131	239,710	237,288	234,867	232,446	
	全社	kg-CO2	243,934	241,495	239,055	236,616	234,177	
	①電気使用量の削減	事務所	kWh	4,048	4,008	3,967	3,927	3,886
		現場	kWh	8,929	8,840	8,750	8,661	8,572
		全社	kWh	12,977	12,847	12,717	12,588	12,458
	②ガソリン使用量の削減	現場	L	9,251	9,158	9,066	8,973	8,881
	③灯油使用量の削減	事務所	L	160	158	156	155	154
	④軽油使用量の削減	現場	L	84,330	83,487	82,643	81,800	80,957
	2	産業廃棄物の削減	現場	t	511	506	501	496
3	水使用量の削減	事務所	m³	104	103	102	101	100
4	環境に配慮した施工 *	現場	アイドリング率	0.215	0.235	0.230	0.225	0.220

備考：購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.347-CO₂/kWh(九州電力H30調整後排出係数)を使用した。

- * 環境に配慮した施工→ 自社機の購入の際、稼働状況管理のできるものを選択し、アイドリングの時間を把握できるようにした。
アイドリング率＝アイドリング時間計 ÷ 稼働時間計
- * アイドリング率はH30の数値がが実態に即してないと思われるので、平均的な数値を目標とする。

環境目標の達成状況（R5年度）

9

環境目標	区分	単位	基準年	運用期間 R 5.7～R6.6			
			H30.7～R1.6	目標値	実績	評価	コメント
1.二酸化炭素排出量の削減	事務所	kg-CO ₂	1,803	1,731	1,707	○	使っていないパソコン、電気をこまめに消すなど節電を心掛けているものの、夏場の猛暑によりエアコンの使用量が増えた
	現場	kg-CO ₂	242,131	232,446	203,497	○	遠方の現場が昨年に比べ多かった
	全社	kg-CO ₂	243,934	234,177	205,204	○	事務所、現場ともに達成できていた
	①電気使用量の削減	事務所	4,048	3,886	4,396	×	夏場・冬場のエアコンの多用
		現場	8,929	8,572	2,789	○	遠方の現場等、現場事務所を設置することが多く、昨年よりは増えているが、目標値よりは大幅に削減できている
		全社	12,977	12,458	7,185	○	現場での電気使用量が大幅に削減できていたことが、目標達成の一因となっている
	②ガソリン使用量の削減	L	9,251	8,881	9,782	×	遠方の現場がやや多かった
	③灯油使用量の削減	L	160	154	73	○	エアコンを主に使用していた
	④軽油使用量の削減	L	84,330	80,957	69,704	○	現場の作業内容により変動あり
2 産業廃棄物の削減	現場	t	511	491	657.4	×	排出現場がやや多かった
3 水使用量の削減	事務所	m ³	103.5	100	52	○	大幅に抑えることができています
6 環境に配慮した施工	現場	アイドリング率	0.215	0.220	0.266	△	夏場・冬場(特に冬場)は増える傾向にあるが、おおむね達成できている

環 境 経 営 計 画（令和5年度）

1.二酸化炭素排出量の削減

取組目標		区分	責任者	達成手段	担当者	スケジュール			
						R5.7～9月	10～12月	R6.1～3月	4～6月
①電気使用量の削減	事務所	山田早	・昼休みは消灯する ・残業を減らす ・空調の最適化を図る(冷やしすぎず温めすぎず) ・複合機を省エネ設定にする	山田早		←→	←→	←→	←→
	現場	山田稔	・機械・器具の選定を考慮する ・効果的な使用方法を考慮する	山田稔		←→	←→	←→	←→
②ガソリン使用量の削減	現場	山田稔	・急加速・急ブレーキ・過積載を避ける ・安全運転に徹する	山田稔		←→	←→	←→	←→
③灯油使用量の削減	事務所	山田早	・ファンヒーターとエアコンの適切な使用	山田早			←→	←→	←→
④軽油使用量の削減	現場	山田稔	・急加速・急ブレーキ・過積載を避ける ・アイドリングを少なくする ・作業の計画、段取り、準備を的確に行う	山田稔		←→	←→	←→	←→

2.廃棄物排出量

取組目標		区分	責任者	担当者	スケジュール			
					R5.7～9月	10～12月	R6.1～3月	4～6月
産業廃棄物の削減	現場	山田稔	・材料の使用数量を再確認し、ロスを少なくする ・残土等の再利用を考える	山田陽		←→	←→	←→

3.水使用量の削減

取組目標		区分	責任者	担当者	スケジュール			
					R5.7～9月	10～12月	R6.1～3月	4～6月
水使用量の削減	事務所	山田早	・節水意識→呼びかけラベルを利用する ・使用後は確実に蛇口を閉める	山田早		←→	←→	←→

4.環境に配慮した施工

取組目標		区分	責任者	担当者	スケジュール			
					R5.7～9月	10～12月	R6.1～3月	4～6月
環境に配慮した施工	現場	山田陽	・近隣への騒音・振動に配慮する ・着工前現地調査の実施 ・地域の環境保全活動に関するボランティア要請に参加する。 ・車両系建設機械はオンライン管理を利用して、アイドリング率をチェックする	山田陽		←→	←→	←→

環境経営計画の実施状況（令和5年度）

1.二酸化炭素排出量の削減

取組目標	区分	責任者		実 施 状 況				
				R5.7～9月	10～12月	R6. 1～3月	4～6月	年度全体
①電気使用量の削減	事務所	山田早	・空調の最適化を図る ・昼休みは消灯する	×	○	×	○	×
	現場	山田稔	・現場規模に応じた電気機器の選択 ・効果的な使用法を考慮する	○	○	○	○	○
②ガソリン使用量の削減	現場	山田稔	・急加速、急ブレーキ、過積載をしない	×	○	×	○	×
③灯油使用量の削減	事務所	山田早	・ファンヒーターとエアコンの適切な使用	○	○	×	○	○
④軽油使用量の削減	現場	山田稔	・作業の計画、段取り、準備を的確に行う ・アイドリングを少なくする	○	○	○	○	○

2.廃棄物排出量

産業廃棄物の削減	現場	山田稔	・材料の使用数量を再確認し、ロスを少なくする	×	○	×	○	×
----------	----	-----	------------------------	---	---	---	---	---

3.水使用量の削減

水使用量の削減	事務所	山田早	・節水意識を呼びかける ・水栓の管理をしっかりと行う	○	○	○	○	○
---------	-----	-----	-------------------------------	---	---	---	---	---

4.環境に配慮した施工

環境に配慮した施工	現場	山田陽	・近隣への騒音・振動に配慮する ・重機、車両のアイドリングを少なくする	○	○	×	×	×
-----------	----	-----	--	---	---	---	---	---

取組状況の確認及び評価

(1) 二酸化炭素排出量削減について

① 電気使用量の削減

- ・ 事務所内の電気は、人がいない所は消灯、パソコンの電源もこまめに落とす。
夏場・冬場のエアコンの使用は避けられないので、適温を心掛ける。
- ・ 夏場、エアコンとともに扇風機を併用し、冷風を循環させる。

② ガソリン・軽油使用量の削減

- ・ 自動車のアイドリングやエンジンのかけっぱなしを極力控えるように心掛ける
- ・ 重機のアイドリングを減らすことで経由の使用量を削減するようにする。
- ・ 現場が遠方になれば当然、ガソリン、軽油の使用量も増えてしまうが、極力乗り合わせでの移動など、できることをして節約を心掛ける。

③ 灯油使用量の削減

- ・ 主にエアコンを使用することで、ファンヒーターの使用頻度を減らし、灯油の使用量を削減できている。

(2) 廃棄物排出量の削減について

- ・ 無駄を抑える施工を心掛け、廃棄物の排出を抑えるようにする。

(3) 水使用量の削減について

- ・ ウォーターサーバーを設置していることで、水道水を使う量を少なくできている。

(4) 環境に配慮した施工について

- ・ 発電機使用時に防音シートをかぶせ、隣接地への騒音の影響に配慮した。



(5)その他

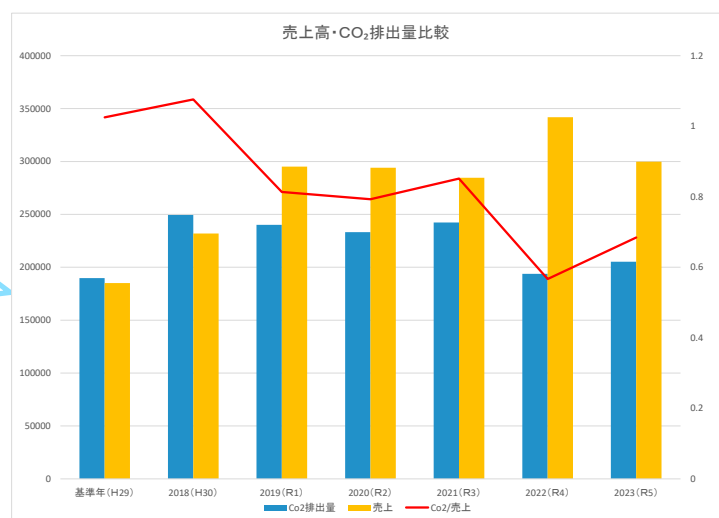
☆ 売上1000円当たりのCO₂排出量をグラフにしてみると

売上1000円当たりのCO₂排出量

年度	CO ₂ (kg-CO ₂)	売上(千円)	CO ₂ /売上
基準年(H29)	189,754	185,075	1.025
2018(H30)	249,456	231,844	1.076
2019(R1)	240,139	295,112	0.814
2020(R2)	233,205	294,097	0.793
2021(R3)	242,344	284,620	0.851
2022(R4)	193,891	341,849	0.567
2023(R5)	205,204	299,878	0.684

(* H29年度CO₂排出量は下半期の数値で換算した)

- ・赤の折れ線が売り上げ1000円当たりのCO₂排出量
- ・数字の推移が分かりやすい。



地域貢献



令和6年5月9日(木) 令和6年度 防災用土のう作り への参加

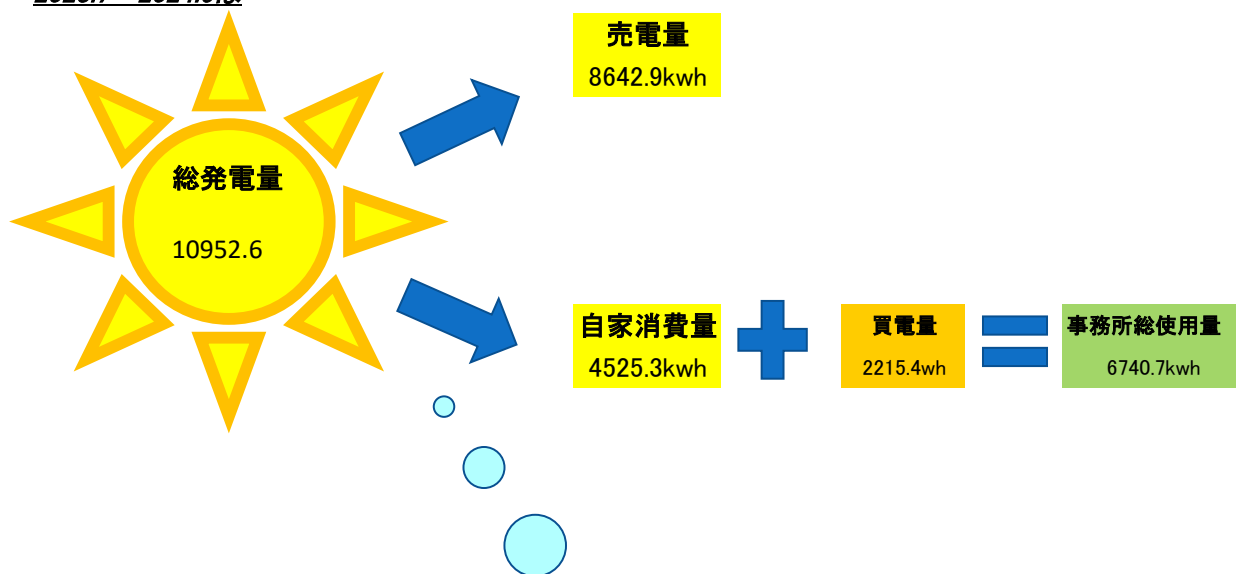
今年度の太陽光発電

(2023.7～2024.6)

当社では2015年より
太陽光発電システムを活用しています

【認定出力9.7kw】

2023.7～2024.6は



事務所総使用電力の 約67%が
太陽光 からの電力でした

Taiyousan arigatou Kansya desu !

これからも
(株)山田組は 節電と太陽光発電システム活用で

二酸化炭素の排出を抑制

していきます。

次年度の環境経営目標及び環境経営計画

(令和6年度)

環境目標	区分	単位	基準年	目標		計画の取組み内容	
			R5	R6	月間		
			R5.7.1～R6.6.30	(0.5%削減)			
				R6.7～R7.6	各月		
1. 二酸化炭素排出量の削減	事務所	kg-CO ₂	1,707	1,698	141	節電を常に心がける	
	現場	kg-CO ₂	203,497	202,480	16,873	車両・重機のアイドリングを最小限に抑える 無事故・無災害に努める	
	全社	kg-CO ₂	205,204	204,178	17,014		
	①電気使用量の削減	事務所	kWh	4,396	4,374	364	エアコンの設定温度は気候変動に合わせて対応する 使用していない機器は電源を切る
		現場	kWh	2,789	2,775	231	使用機器の選択を適切に行う
		全社	kWh	7,185	7,149	595	節電意識を常に持つ
	②ガソリン使用量の削減	現場	L	9,782	9,733	811	安全運転＋優しい運転
	③灯油使用量の削減	事務所	L	73	42	11	12～3月のみ使用。エアコンとの併用で室温管理
	④軽油使用量の削減	現場	L	69,704	69,355	5,779	二度手間工事を回避する。工程管理と段取りの確認
2	産業廃棄物の削減（再資源化率の向上）	現場	%	－	95	95	リサイクルできる廃棄物の把握。 処理業者をよく考えて選定
3	水使用量の削減	事務所	m ³	52	50	4	蛇口はこまめに止める
4	環境に配慮した施工　＊	現場	アイドリング率	0.266	0.265	0.265	近隣へ迷惑をかけない。地域防災に協力する

環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果 ならびに違反、訴訟等の有無

当社の事業活動に関する環境関連法規等は次の通りです。

法規等	適用される事項
廃棄物処理法	産業廃棄物の管理・排出マニフェストの交付・回収・保管の適正処理
建設リサイクル法	一定規模以上の解体工事の届出と再資源化の実施
オフロード法	特定特殊自動車の使用の制限
騒音規制法	特定建設作業の届け出 建設現場での機械使用時の騒音レベルの遵守
振動規制法	特定建設作業の届け出 建設現場での機械使用時の振動レベルの遵守
自動車リサイクル法	使用済み自動車の引渡義務
フロン排出抑制法	簡易定期点検の実施

遵守状況を確認した結果、環境関連法規への違反はありません。
適正な対応が行われていました。

また、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟はありませんでした。

代表者による評価と見直し・指示

1, 評 価

- 1) 夏場・冬場のエアコンの使用は避けられないところではあるが、使っていないパソコンの電源や電気をこまめに消すなど、出来る範囲で一人一人が節電を心掛けて出来ているようだ。
- 2) 今期は現場事務所を設置する現場が昨年に比べて多く、現場での電気使用量が増加したものの、目標はおおむね達成できていた。
- 3) 発電機稼働時に防音シートをかぶせるなど、近隣の方々への配慮をしつつ作業ができていた。

2, 見直し

- 1) 現場周辺の把握・事前調査を徹底的に行い、近隣への配慮を怠らない。
- 2) 各現場、工程管理、安全衛生管理、段取りを綿密に行い、無駄のないスムーズな施工を心掛ける。

3, 指示

環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画、実施体制は、このまま継続する。

株式会社 山 田 組
代表取締役 山田 稔浩